

昭和20年10月洪水

終戦の年、遠州地方に連続して台風が襲来。

戦争によって天竜川西派川の堤防内に設けられた防空壕跡から決壊し、浜松市南部に多くの被害が発生。

戦後の混乱期の災害であったため、避難、救助は困難を極めました、それらの記録はあまり残されていません。

戦争による国土の荒廃。堤防に掘られた防空壕跡から決壊。 終戦直後の浜松市南部に未曾有の被害が発生。

昭和19年の「東南海地震」、終戦直前の「浜松大空襲」に続き、終戦直後には遠州地方を連続して複数の台風が襲来しました。

9月の枕崎台風(台風16号)、10月1日から7日にかけて遠州灘沖から三宅島付近を通過した台風19号、そして10月4日から12日にかけて鹿児島県阿久根市から中国地方を通過し、能登半島に抜けた「阿久根台風(台風20号)」です。

特に、台風が襲来した時期は秋霖(初秋の長雨の時期のこと)にあたり、それ以前の長雨に続き、2つの台風が接近し、前線が刺激されたことにより、当時7年ぶりといわれる大雨になりました。

天竜川の堤防決壊は10月1日から7日にかけて接近した台風による影響が大きいと考えられますが、その直後に接近した「阿久根台風」により、全国で死者377名、行方不明者74名、負傷者202名、住家損壊6,181棟、浸水174,146棟などの大きな被害が発生しています。



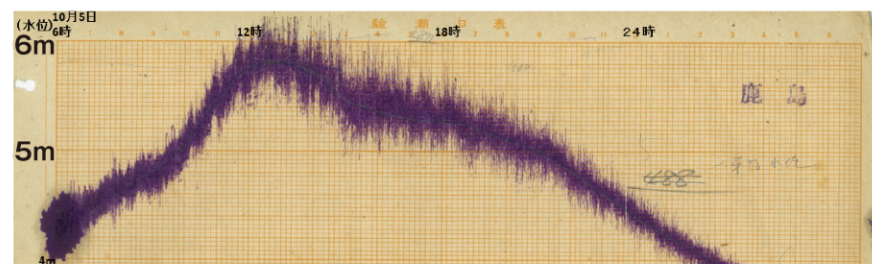
破堤箇所を上流から望む



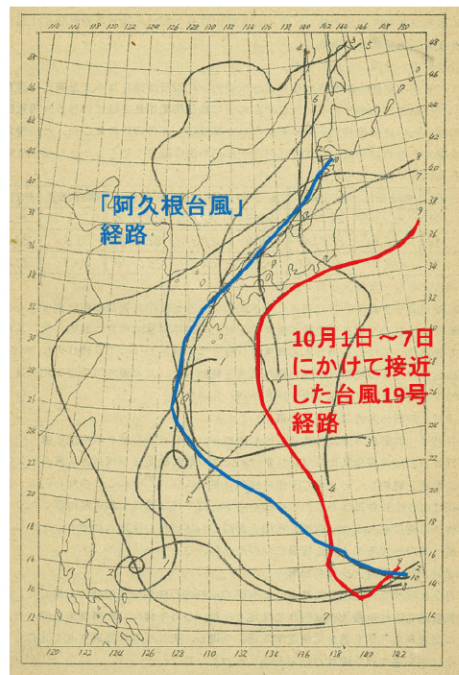
破堤の記録を残す石碑



堤防決壊箇所の位置(写真は昭和22年撮影)



昭和20年10月5日の天竜川「鹿島(浜松市天竜区二俣町鹿島)」水位観測所の水位記録紙から振り切れるほどの急激な水位上昇を記録している。



昭和20年 阿久根台風経路図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 平27情使、第49-GISMAP35617号)

浜松市南区芳川、河輪、五島、飯田地区を中心に大規模な被害。

流域の死者34名、浸水家屋847戸、浜松市南区では12km²が浸水。 ※値は「静岡県異常気象災害誌」より。

静岡県浜名郡芳川村(現浜松市南区)金折では、天竜川西派川の堤防が40m以上にわたり決壊し、当時の芳川村、河輪村、五島村、飯田村において甚大な被害が発生しました。死者20名他、静岡県内の浸水被害のほとんどがこの地域に集中する大災害となりました。

河輪地区	
浸水・被害家屋	256戸
田畑冠水	約228万m ²
芳川地区	
浸水・被害家屋	801戸
田畑冠水	約486万m ²
死者	20名
五島地区	
浸水・被害家屋	200戸
田畑冠水	約397万m ²

※値はわが町文化誌「水と光と緑のデルタ」より。
集計した機関が異なるため、上記値と一致しません。



天竜川西派川堤防決壊直後の家屋の倒壊状況(浜松市南区金折町)



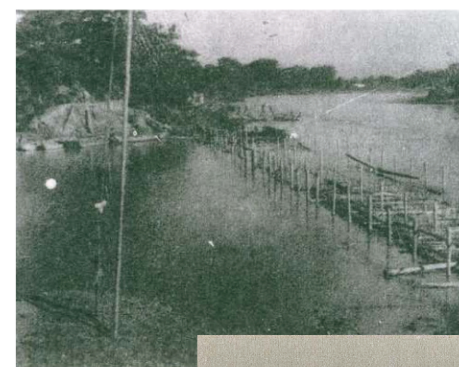
天竜川西派川堤防決壊直後の農地の流出状況(浜松市南区金折町)

戦争により中断していた、天竜川の改修工事が再開。 困難な築堤工事の末、天竜川西派川は昭和26年に締切が完成。

第二次世界大戦の苛烈化と共に治水事業予算は次第に縮小され、天竜川も荒廃して改修工事も停滞していました。昭和20年10月洪水により天竜川の堤防は大きな被害を受け、復旧工事に着手しました。

次第に落ち着きを取り戻した昭和23年に建設省中部地方建設局(現・国土交通省中部地方整備局)が発足し、昭和2年に始まった改修工事の当初から懸案であった天竜川西派川締切に、本格的に着手することになりました。

工事は昭和25年に着手し、同26年に竣工しましたが、大河川の締切工事のため、護岸延長は1,400m、築堤土量は20万m³にも及び、昭和2年からの第二次改修の中で最も困難な工事となりました。



堤防決壊後の仮締切工事の状況



天竜川西派川締切工事の状況